

# トルコ地震

死者1万4691人

不明は3万人に

【エルサレム2日海保真人】トルコのアナトリア通信によると、トルコ大地震による死者は、2日現在の政府危機管理センターのまとめで1万4691人に上った。同セ

ンターによると、負傷者は2万4000人以上。行方不明者は約3万人と推計されている。ほとんどが生き埋めになっているとみられ、絶望視されている。(3面参照)

## 教訓は…国際援助隊長に聞く

# 生身の情報が一番

トルコ北西部を先月17日に襲った大地震では、都市部の家屋の倒壊などで4万人近くが死傷し、約20万人の被災者が仮設テントなどでの生活を強いられている。地震発生直後から被災地に入り、救出作業に当たった国際緊急援助隊の救助チーム隊長、高橋智章さん(52)＝東京消防庁救助課長＝に、現場で実感した教訓と日本でも予想される大都市圏での震災に備え何が必要なのかを聞いた。(鮎川 耕史)



高橋智章さん

— 救援活動の成果は？  
地震の発生当日に日本を出発し、イスタンブールから海路で約60\*離れたヤロバ県に入った。日本からの援助部隊の手が回っていない所はどこは39人。計21カ所の現場で救助活動に当たり、12人を発見したが、倒壊した建物の中か

ら運び出せたのは6人だった。このうち生存者は74歳の女性1人だった。  
— 到着から活動開始までは、スムーズにいきましか。ヤロバの対策本部に到着後、しばらくは何も指示がなかった。そこで、「また救助の手が回っていない所はどこですか」とこちらから尋ね、約8\*離れた被災地に案内さ



ヤロバ県の家屋倒壊現場で行方不明者の捜索・救助活動を行う日本の国際緊急援助隊 —東京消防庁提供

か手に入らなくて困った。応援部隊用の地図が十分に用意されていないようだった。  
— 援助を受ける側の態勢づくりも課題ですか。

現場がどこにあり、そこで何が必要か、ということが分れば救助に当たれる。応援部隊にそうした情報を速やかに伝えるには、事前の備えが

必要であることを痛感した。東京都では応援の受け入れ、つまり「受援」について阪神大震災後に計画を作った。応援の人たちを、どんな指揮態勢でどう配分するかという計画だ。

— トルコでの教訓は？

なにより大切なのは情報だ。トルコでは、がれきの下を探る専用カメラや生体反応を探知する機材も使っていた。でも、どんなハイテク機材より重要なのは情報だ。74歳の女性を救出できたのも、「あの辺りで人の声がある」という人々の情報がきっかけだった。阪神大震災でも、どこにだれが住んでいるという近所の情報が素早い救出に役でもらいたい。

立ったケースがたくさんあった。社会情勢の変化で、こうした隣近所の情報は少なくなっているのが……。  
— 地震が頻発する国に住む私たちに必要な心構えは？  
建物が壊れ、人が下敷きになった時、救助隊が到着するまでの間にまず頼りになるのは自分の力。その次に家族や近くにいる人たちだ。その中に応急の手当てや救出法を身につけている人がいるかどうかで大きな違いが出る。いざという時、そうした人たちが負傷者に手を差し伸べることができるといい。防災訓練などを通して、できるだけ多くの人に基礎的な技術を学んでもらいたい。

## 復興の道アドバイス

### 兵庫・神戸の専門家がセミナー

【イスタンブール3日共同】トルコ北西部大地震で日本から派遣された兵庫県と神戸市の専門家チームは2日、イスタンブールで「震災セミナー」を開き、地元自治体関係者や建築専門家に被災者対策、復興への取り組みなど阪神大震災での経験を伝えた。

冒頭、兵庫県の小原健男氏がこれまでの行政の取り組みを説明。復興基金を活用した機動的な政策運営をトルコ側に提案した。

また神戸市の担当者は避難所の運営や仮設住宅の設置について質問があった。イスタンブールのある職員は「日本の経験を参考にしたい」と話した。

専門家チーム一行は、被災地での視察を終えて3日にアンカラ入り。政府関係者と協議を行った後に、復興プログラムをまとめ、トルコ側に提出する予定。建物危険度判定専門家再び派遣

【高尾 具成】救済医療終了帰国 AMDAの4人 トルコ大地震で、救済医療活動に従事していた国際医療援助団体「AMDA」(アジア医師連絡協議会、

本部・岡山市)の医師、看護婦計4人が3日、活動を終え、トルコ・イスタンブールからの直行便で関西国際空港に帰国した。衆院議員の医師、中桐伸五さん(56)▽医師、相馬祐人さん(33)▽看護婦、鈴木由香さん(35)▽同、神農節子さん(25)の4人。震源地・イズミトの南西十数\*のヌシエティエ村などの都市に診療所を置き、被災者の医療活動を行ってきた。

【谷口 照仁】募金受け付け 毎日新聞社会事業団の救済基金は「トルコ地震救済金」と明記して左記へ郵便振替、現金書留で送金していた。なお、直接ご持参下さい。なほ、物資の受け付けはいたしません。〒53301-8251 大阪市北区梅田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「トルコ地震」係郵便振替009709-12891

## 都市災害の死角

◇番外編◇